平成 20 年度 第 44 回 秋田県病院薬剤師会総会並びに学術講演会

日　時 ； 平成 20 年 5 月 17 日（土） ～ 18 日（日）
場　所 ； 秋田温泉「さとみ」　本館 1 階 コンベンションホール「泰山」

日程

平成２０年５月１７日（土）

15：00　**秋田県病院薬剤師会総会**
16：00　**平成２０年度　秋田県病院薬剤師会　臨床薬学賞、学術奨励賞**
　　秋田県病院薬剤師会賞、秋田県病院薬剤師会特別功労賞　表彰式
17：00　**学術講演会**
　　座長　秋田県病院薬剤師会 副会長 村上 松太郎 先生
　　臨床薬学賞受賞講演
　　『オーダーメイド免疫抑制薬物療法への試み』
　　秋田大学医学部附属病院 講師・副薬剤部長 三浦 昌朋 先生

18：30　**懇親会および新入会員紹介**

平成１９年５月１８日（日）

9：00　**特別講演**
　　座長　秋田県病院薬剤師会 会長　菅原　信幸　先生
　　『医療における薬剤師のさらなる貢献を目指して』
　　国立がんセンター 東病院 薬剤部長
　　社団法人 日本病院薬剤師会 副会長　遠藤 一司 先生

10：30　**記念写真　　散会**

平成 20 年度 第 44 回 秋田県病院薬剤師会総会並びに学術講演会報告

日　時 ； 平成 20 年 5 月 17 日（土） 15 時 ～ 18 日（日）9 時 ～
場　所 ； 秋田温泉「さとみ」　本館 1 階 コンベンションホール「泰山」

定刻となり、総合司会の秋田県成人病医療センター 皆川英伸先生より、平成 20 年度 第 44 回 秋田県病院薬剤師会総会並びに学術講演会の開催が言い渡された。

開会の辞　秋田県病院薬剤師会副会長 村上松太郎先生より総会開催の宣言がなされた。

会長挨拶　秋田県病院薬剤師会会長 菅原信幸先生より、がん認定薬剤師 3 名を中心にレベルアップする必要性、長期実務実習指導薬剤師の現状と受け入れ体制について、診療報酬改定に伴う在宅への対応等、今後県薬と連携を図り県民のため更なる向上が必要との挨拶があった。

来賓挨拶　秋田県薬剤師会会長 松田泰行先生よりご祝辞を頂戴した。

祝電披露　秋田県成人病医療センターの八代佳子先生より、日本病院薬剤師会堀内会長、元参議院議員藤井基之様および薬事新報社取締役社長上野昭敬様よりの祝電が披露された。

総合司会の皆川英伸先生より、総会の議事に移るが議長の選出について出席者一同に諮ったところ「執行部一任」の声があり、議長に市立秋田総合病院の後藤康晴先生が選出された。

議長より、総会出欠状況の報告があり、秋田県病薬会員総数 448 名、総会出席者数 84 名、委任者数 279 名、計 363 名の参加が確認され、過半数に達していることより会則 第 11 条の 2 より本総会の成立が宣言された。
引き続き、議事録署名人 2 名の選出を一同に諮ったところ「議長一任」との声があり、議長より湖東総合病院の阿部充弘先生、外旭川病院の佐藤正樹先生の二人が指名された。
議長より「充分ご審議頂けますようよろしくお願いします」との挨拶があり審議に入った。

報告事項１　三浦修副会長より、平成 20 年 2 月 2 日 日本薬学会長井記念館において、第 41 回 日病薬通常代議員会が行われ、日病薬代議員として村上松太郎先生と二人で出席した。主な内容として、重要事項①薬剤師の業務および人員配置、②診療報酬改訂、③病院実務実習、④専門薬剤師認定制度等、⑤薬剤師認定制度についての報告があり、引き続き報告事項、議案、質問・要望事項、役員の選挙についての報告があった。

報告事項２　平成 19 年度庶務報告ならびに生涯研修報告の質疑応答は一括となり、はじめに平成 19 年度庶務報告が佐々木修総務委員長より行われた。総会の報告から始まり、主に平成 19 年度の理事会、臨床薬学研究会、斬る会、卒後研修会および生涯研修会等についての報告があった。また、平成 19 年度の各都道府県病薬からの寄贈誌の紹介、平成 19 年度の薬剤管理指導料承認・届出施設および無菌製剤処理加算承認・届出施設の報告に続き、平成 20 年度の主な行事予定についての報告があった。
次に、宮腰都津子生涯研修委員長より、平成 19 年度生涯研修報告が行われた。平成 19 年度は 136 講座を認定し、認定申請者は 29 施設 154 名であった。また、5 年連続認定者は 12 名、内 2 名は 10 年連続認定者であったとの報告があった。

報告事項３　平成 19 年度決算報告ならびに会計監査報告については一括審議となり、はじめに平成 19 年度決算報告が後藤敏晴会計担当より行われた。引き続き、財産目録の提示があった。
次に、向井想一監事より会計監査報告が行われ、現金出納帳、領収証、通帳および現金等について、いずれも適正に処理されていたとの報告があった。
議長より、決算報告並びに会計監査報告について拍手にて承認を求められ、多数とみなし平成 19 年度決算報告ならびに会計監査報告は承認された。

報告事項４　その他の報告は特になく、協議事項へ移った。

協議事項１　平成 20 年度事業計画（案）ならびに平成 20 年度予算（案）は一括審議となり、はじめに平成 20 年度事業計画（案）について菅原信幸会長より、「病院薬剤師の増員の取り組みと日病薬との連携強化」、「長期実務実習受け入れ体制の整備と充実」、「専門薬剤師の養成に対する取り組み」、「生涯教育・研修活動の推進」、「薬－薬連携の推進」の 5 項目は昨年度の課題の強化とし、医療法改正に伴う「医薬品安全管理者」の配置について触れ、新たに「医療安全への取り組み」を盛り込んだ事業計画（案）が提示された。
次に、平成 20 年度予算（案）について後藤敏晴会計担当より提示された。収入の部では新たに生涯研修通信費として 50 万を見込み、支出の部では過年度の実績に基づき各項目の予算額を調整した。主な項目としては、卒後研修会ではプラス 20 万の 100 万円、通信費ではホームページのリニューアルで 10 万アップの 40 万円を見積り、会員出張が少ないことから 5 万減の 25 万円とし会長出張費を 15 万円にアップしたとの予算（案）について説明がされた。
議長より、事業計画（案）ならびに予算（案）について拍手にて承認を求められ、多数とみなし平成 20 年度事業計画（案）ならびに予算（案）は承認された。

協議事項２　次期会長並びに監事の選出に移り、議長より現役員の任期は 2 年であり、平成 20 年 3 月 31 日を持って満了したとの説明があり、一同に立候補あるいは推薦を求めたが出ず、執行部に推薦を求めた。
佐々木修総務委員長より、先の理事会で菅原会長より次期会長へ立候補するとの旨を理事会へ諮ったところ、役員全員一致で菅原信幸先生を次期会長へ推薦したい、監事については引き続き、向井想一先生、佐々木のり子先生を推挙したいとの申し出があった。
議長より、執行部の推薦者について拍手にて承認を求められ、多数とみなし会長には中通総合病院 薬剤部長 菅原信幸先生、監事には秋田赤十字病院 副薬剤部長 向井想一先生、本荘第一病院 薬剤科長 佐々木のり子先生が引き続き選出された。
その後、次期会長として改めて菅原信幸先生よりご挨拶があった。

協議事項３　次期開催地担当者挨拶では県北地区担当副会長 太田敏彦先生より挨拶があった。

協議事項４　その他では特に無く、議長より速やかな議事進行の協力に対し一同にお礼を述べ、16 時 5 分閉会となる。

引き続き、平成 20 年度 秋田県病院薬剤師会各賞の表彰式が執り行われた。

秋田県病院薬剤師会　学術奨励賞受賞者表彰式
受賞者　市立秋田総合病院　原田亜希子先生

秋田県病院薬剤師会　臨床薬学賞受賞者表彰式
受賞者　秋田大学医学部附属病院　三浦昌朋先生

秋田県病院薬剤師会賞（日病薬有功会員感謝状贈呈者）

受賞者　山先　滋先生　前市立秋田総合病院薬剤部長（日病薬有功会員感謝状贈呈）
安保忠明先生　前秋田組合総合病院薬剤長（日病薬有功会員感謝状贈呈）
佐藤悦子先生　前秋田大学医学部附属病院副薬剤部長
安宅久成先生　前秋田大学医学部附属病院副薬剤部長（日病薬有功会員感謝状贈呈）
長谷山勉先生　前雄勝中央病院薬剤長（日病薬有功会員感謝状贈呈）
齋藤玉喜先生　前由利組合総合病院薬剤長（日病薬有功会員感謝状贈呈）
千田　均先生　前男鹿みなと市民病院薬剤長
高橋　守先生　前秋田東病院薬局長

秋田県病院薬剤師会特別功労賞

受賞者　山先　滋先生　前市立秋田総合病院薬剤部長

受賞者を代表して、山先滋先生より病薬などの思い出を交えたお言葉を頂戴した。

10 分程休憩を挟み、17 時より学術講演会が開催された。

臨床薬学賞受賞講演

座長　秋田県病院薬剤師会 副会長　村上 松太郎 先生
「 オーダーメイド免疫抑制薬物療法への試み 」
秋田大学医学部附属病院 講師・副薬剤部長　三浦 昌朋 先生

18 時 30 分より、新館 2Ｆ「鳥海の間」にて懇親会および新人紹介が開催された。

懇親会は市立秋田総合病院 藤原洋之先生と小川陽子先生の司会により進行された。
はじめに、幹事病院を代表し市立秋田総合病院薬剤部長 宮腰都津子先生により挨拶があった。
続いて、県病薬副会長 太田敏彦先生の乾杯のご発声により開宴となる。
19 時 20 分頃、平成 20 年度秋田県病薬 新入会員 19 名の紹介が行われた。
中締めは、同じく幹事病院を代表し秋田県成人病医療センター薬剤科長 後藤敏晴先生により、一本締めで行われ 20 時 45 分閉宴となる。その後の 2 次会へも多くの方が参加された。

5 月 18 日（日） 9 時～
特別講演は、当初予定していた日本病院薬剤師会 副会長 佐藤 秀昭 先生が、突然のケガにより入院され、代わりに遠藤 一司 先生にお越し頂き開催された。

座長　秋田県病院薬剤師会 会長　菅原 信幸 先生
「 医療における薬剤師のさらなる貢献を目指して 」
国立がんセンター 東病院 薬剤部長
社団法人 日本病院薬剤師会 副会長　遠藤 一司 先生

特別講演は 10 時 40 分終了し、その後正面玄関前にて記念撮影を行い散会となる。

平成20年度 第44回秋田県病院薬剤師会総会
表彰状
2008.05.17

平成20年度 第44回秋田県病院薬剤師会総会並び
2008.05.17

平成20年度 第44回秋田県病院薬剤師会総会並びに学術講演会
2008.05.17

演者
2008.05.17

2008.05.17

演者
2008.05.18

2008.05.18

平成 20 年度　事業計画

1. 病院における薬剤師の増員の取り組みと日病薬との連携強化

平成 19 年 8 月 10 日付けで報告された「病院における薬剤師の業務及び人員配置に関する検討会報告書」で示されているように、病院の薬剤師の定員を増やすには、病院薬剤師に求められる業務を医療機関の規模と専門領域に応じて具体的に実践することが重要です。平成 20 年度は、日常業務における情報の交換、新しい業務を実施するための薬剤師の資質向上と環境整備、診療報酬における正当な評価の実現を目指して日病薬との連携を強化しながら進めていきます。

2. 長期実務実習受入体制の整備と充実

平成２２年５月から始まる、６年制薬剤師の実務実習の対応については、１５施設２７名が既にワークショップの研修を修了しております。平成 20 年度も、引き続き、予定されている 5 回のワークショップに参加し、実習受入可能を表明している施設で最低 1 名以上の「認定実務実習指導薬剤師」を養成していきます。また、東北地方の薬科大学と「実務実習に関する懇談会」を開催します。グループ実習に関しては引き続き、県北、中央、県南のブロック別に具体的な検討を行ないます。

3. 専門薬剤師の養成に対するり組み

日病薬では「がん専門薬剤師」、「感染制御専門薬剤師」、「精神科専門薬剤師」の専門薬剤師の認定制度が行なわれています。秋田県においても、3 名の薬剤師が 3 ヶ月間の指定施設での研修を終え、「がん薬物療法認定薬剤師」に認定されました。また、薬剤師が中心となり「秋田県薬剤師オンコロジー研究会」や「秋田県精神科薬剤師セミナー」などの研究会も組織されました。糖尿病に関しての研究会の立ち上げも検討されています。平成 20 年度は
「がん専門薬剤師」、「がん薬物療法認定薬剤師」及び「感染制御専門薬剤師」、「精神科専門薬剤師」の認定を目指し、これらの研究会と協力しながら、研修会等の充実を計っていきます。

4. 生涯教育・研修活動の推進

日本薬剤師研修センターでは、新カリキュラム対応研修事業（大規模生涯研修）がスタートし、6 年制新カリキュラムで強化された医療薬学や長期実務実習の教育内容を、既に 4 年制課程を卒業した薬剤師が研修することが求められています。この様に、生涯教育の必要性はさらに高まっており、県病薬でも昨年度に引き続き、「会員発表を取り入れた臨床薬学研究会」、「卒後研修会（県薬と共催）」、「学術講演会」、「斬る会」及び「生涯研修会」を開催していきます。また、秋田県病院薬剤師会生涯研修講座受講者には認定シールを配布し、会員の研修意欲の向上を図ります。

5. 医療安全への取組み

平成 19 年 4 月の医療法改正で、医薬品の安全管理体制を確保するために、「医薬品安全管理者」の配置が定められ、「標準業務手順書」の作成が義務付けられました。医薬品による医療事故の報告が後を絶たない状況の中、医薬品を安全に使用するには薬剤師の積極的な関与が求められています。平成 20 年度は「標準業務手順書」に従った医薬品の使用及び管理を進めながら医療安全に積極的に取り組んでいきます。

6. 薬－薬連携の推進

平成 20 年 4 月からの診療報酬の改訂で、在宅医療の点数が大幅に見直されたことにより、今後益々在宅医療が進むものと思われます。また、処方箋様式の変更により、後発医薬品の選定を

保険薬局が行なえるようになりました。患者が服用している薬を入院から在宅まで、あるいは在宅から入院までをトータルで管理するには、保険薬局との連携がさらに重要になってきます。平成 20 年度はすべての退院患者に服薬指導を行なうことを目指し、積極的に「お薬手帳」を活用していきます。また、県薬との合同の研修会を開催すると同時に、病薬主催の講演会及び研修会等に積極的に保険薬局の薬剤師の参加を呼びかけていきます。